

厚 ま 企 第 4 2 号

平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

北海道厚岸町長 若 狹



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

秋涼の候、貴職におかれましては、日頃から道路行政の推進にご尽力されておりますことに対し厚くお礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号をもって照会のありました標記の件について、別紙のとおり提出いたします。

道路行政を取り巻く社会情勢は厳しさを増す環境にあります。都市部とは異なる地域の実情、北海道の特殊性を十分に認識していただき、今後も効果的な社会基盤整備の推進に深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まちづくり推進課企画調整係

担当：湊 谷 政 弘

電話：0153-52-3131 内線231

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道 厚岸町

効率的・効果的な事業の推進を図るための整備手法も相まって、一連の整備路線の局部的な整備にとどまり、その結果として未だに通行量などの効果が現れていない路線が数多くあります。厳しい財政状況の中、中・長期的な計画で進めている地方路線を、現状の交通量のみをもって投資効果を計られるのでは、今後の道路整備に大きな不安を抱かざるを得ない状況にあります。ぜひ、こうした条件不利地の実情に応じた適切な事業評価システムの構築に配慮願います。

都市部と地方とでは、そもそも必要と判断する道路の性格や考え方に違いがあります。都市部のように交通渋滞の解消やバイパス的役割の道路が必要なのではなく、地方では過疎化が進み医療や福祉といった住民生活に直結する面と、食料生産地としての機能を発揮しながら魅力と活力のあるまちづくりを進めるための道路整備は重要な基盤であり、北海道のように広範囲に点在する市町村を効率的に結びつけるネットワークづくりが強く求められています。

過疎化の進む農山漁村の公益的な機能を保持する上からも、首都圏や大都市圏とは異なった事業評価の手法を用いなければ、地方の生活・産業基盤の保持・確保は困難を極めます。その結果、地方の崩壊を招き、都市部さらに国の崩壊へと繋がるのではと強く懸念するところです。

②－１ 地域の現状と抱える課題

○現状

道路は、まちの骨格を形成し、豊かな町民生活を支える基盤であるとともに、地域の均衡ある発展や産業の振興に不可欠なものとして、重要な役割を果たしています。

厚岸町の道路交通体系は、町の中心部を東西に横断する一般国道44号の国道1路線をはじめ、主要道道3路線、一般道道5路線が主要な幹線道路となっており、そして町道などによって骨格的な道路網が形成されていますが、交通量の多い国道や道道の一部では、幅員の狭あいや歩道の未設置などから安全性が懸念されている状況にあります。

また厚岸町は、地震を含め災害の多い地域であり、国道が通行止めとなると町民生活や地域産業に多大な影響が及ぶことから、地震などの災害時における安全な迂回路の確保が重要となっています。

○課題

道路利用実態や沿道状況を考慮し、幅員拡幅や線形改良、歩道の新設など、交通安全対策の整備を推進していく必要があります。

また、広大な面積を有し食料供給基地としての役割を担い、豊富な資源を活用した観光産業の振興などを図るうえからも、経済圏の広域化やモータリゼーションの進展に対応した高速自動車国道の早期整備による高速交通ネットワークの形成が望まれております。

生活道路は、地元要望などにも配慮し整備を進めてきていますが、市街地に比べ郊外では舗装率が低いことから、地域の均衡や緊急性、重要性に留意しながら整備を促進していく必要があります。

さらに、道路は交通の機能だけでなく、都市景観やコミュニティ、交流の場としても重要な役割を果たすものであるため、安全で快適な道路空間の形成を図る必要があります。

【第４期厚岸町総合計画】

厚岸町は、恵まれた自然環境と豊かな農林水産資源などを有し、古くから道東文化発祥の地として開かれ、先人たちのたゆみない努力によって、幾多の困難を乗り越えながら発展してきました。

今日、産業・情報・医療などの科学技術がめまぐるしく発展する一方で、国際社会との調和や環境との共生が求められ、また、人々の生活意識の変化や価値観の多様化、高齢化・少子化などが進んでいます。加えて、長引く経済の低迷や地方分権の進展など、地域を取り巻く情勢は大きく変容しつつあります。

従来の考え方や行動では通用しない変革の流れのなかで、21世紀に向かって、厚岸町が発展していくためには、町民自身がこれまでのような依存意識から脱却し、厚岸町自らも、自己決定、自己責任を基本とした「地方政府」へと生まれ変わっていかなければなりません。

このような状況のなかで、まちの主人公である町民が活気に満ちていなければ、まちの魅力も失われていき、やがては、まちの存亡すら危ぶまれることから、物心ともに豊かさを実感できる厚岸町を創り上げるため、健康でいきいきと生活し、我がふるさとを誇りに思える魅力あるまちづくりが大切です。

そのため、今後は今日的な課題への対応を図りながら、町民一人ひとりの個性が尊重され、子どもから高齢者まで、だれもが生きがいをもって安心して暮らし、ふるさと「あつけし」に自信と愛着を感じながら、住んで良かったと思える魅力のあるまちづくりを進める必要があります。また、これからの10年間は過去の10年間よりも一層変化と多様性に富んだ時代と予想され、ふるさと「あつけし」の新世紀を確かなものとするためにも、より一層の創意工夫が求められています。

こうした考え方から、本計画が目標とする将来像を次のように設定し、町民と行政がともに知恵を出し合い、力を結集して、その実現に努めます。

「ひとに活力 まちに魅力 創意ではばたく 新生あつけし」

『分野別まちづくり構想』

◎ 道 路

車社会が急速に進展し増大する交通需要に対応し、日常生活の確保や経済活動の活性化を図るため、高規格幹線道路や国道、道道の整備を要請するとともに、生活道路の整備を進め、有機的・機能的な道路交通体系の確立に努めます。

また、環境の保全や周辺の景観との調和、高齢者や障害者などに配慮した良好な道路交通環境の整備に努めます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道 厚岸町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 地域活力の向上	地域資源を活用した観光ルートの整備 ・ 床潭末広間道路の整備	奇岩怪石に富む風光明媚な海岸線ルートの整備により、観光客を誘引する魅力が弱いとされる釧路根室間のルートに大いなる効果が期待される。	
・ 大規模な地震、火災に強い国土づくり等	地震などの災害に強い道路環境の整備 ・ 老朽化の進む橋梁などの計画的な改修と免震化 ・ 災害時における幹線道路の迂回路整備（ライフラインの複線化）	本町は地震を含め災害の多い地域であり、地理的要因からも幹線道路が通行止めとなると住民生活、地域産業に多大な影響が及ぶことから、災害に強い道路環境の整備は住民の安全・安心なまちづくりに直結し、定住施策として効果は大きい。	
・ 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	北海道横断自動車道・根室線（国道44号の別保～温根沼間）の現道ルートを活用した規格の高い道路整備 ・ 一定区間における車道部の複線化 ・ 狭隘な跨線橋の自歩道（拡幅）整備 ・ 冬期間の路面对策（ブラックアイスバーン対策など） ・ 多発するエゾシカによる交通事故対策	漁業と酪農業を基幹産業とする本町の食料生産地としての役割をより発揮できるとともに、過疎化や少子高齢化の進む地方と都市部を結ぶ安全な高速道路網の整備により、住民の福祉の向上はもとより効率的な行政運営に大きな期待が寄せられる。	